

2023 年度 教育課程

専門分野
(地域・在宅)

地域・在宅看護論

構築の考え方

在宅看護論は、地域で生活しながら療養する人とその家族を対象とし、地域で生活する人々の健康問題への援助について総合的に理解し、在宅における看護が実践できる基礎的能力の育成をめざす領域として位置づける。

近年、地域に生活する人々は、人口構造および疾病構造の変化に伴う医療体制改革や、家族形態の変化による介護不足問題等から、在宅におけるケアニーズを拡大させている。

また地域で生活する人々は、核家族の増加もあり個人主義の傾向が強くなり、多様な価値観の尊重を求めるようになってきている。それに治療優先の療養から、自らの生活ニーズに合わせた療養へ、そして受け身から自ら選択する療養へと形態を変化させてきている。

そのため看護師には、単に在宅療養の看護技術の提供だけでなく、施設内看護と在宅看護との相違を踏まえ、療養者や家族の QOL・自己決定を尊重し、セルフケアを促進することが求められている。そして対象のもつ諸問題に対し、専門的知識・技術を活用し解決していく役割がある。さらには、終末期看護を含む在宅での看取りを充実させていくことも課題となっている。また対象が安定した生活を継続していくために、地域保健医療福祉機関との連携・協働を図っていくことが重要となる。

これらのことを踏まえ、地域・在宅看護論では既習の知識・技術を統合しつつ、地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を判断し実践する基礎的能力を養う必要がある。しかし、学生は生活体験が乏しく、在宅で療養している対象をイメージできない傾向にある。また、対人関係形成能力も未熟である。

そこで、まず、人々の暮らしや地域で暮らす人々を理解する必要がある。そのうえで、在宅で療養する人々は「生活者」であることを意識し、それぞれの人には家庭・家族があり、「地域社会の中で役割をもって生活している人」として捉えられるよう、看護の視野を広げて学習を進めていく必要がある。

以上のことから、地域・在宅看護論の授業科目構成は、看護の基礎となる地域演習Ⅰ・Ⅱ、地域で暮らす人々と看護、地域・在宅看護論概論、地域・在宅看護論援助論Ⅰ・Ⅱの6単位（130時間）並びに地域・在宅看護論実習2単位（90時間）とし、合計単位数は8単位（220時間）とする。

看護の基礎となる地域演習Ⅰでは、地域で暮らす生活者の環境・生活者の思い・生活者を支える人たちの現状を知る。

看護の基礎となる地域演習Ⅱでは、医療機関と地域をつなぐ退院支援と地域包括ケアの実際を知り、対象が療養する生活の場・看護師が活動するさまざまな場における看護の役割を理解する。

地域で暮らす人々と看護では、人々が暮らす地域を総合的に理解するとともに、地域における課題と看護の役割を考察する。

地域・在宅看護論概論では、地域で療養する対象の特性を理解し、地域保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の機能と役割を理解する。

地域・在宅看護論援助論Ⅰでは、地域・在宅という場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識を理解するとともに、生活の場に訪問する際の基本的マナーを理解・習得する。

地域・在宅看護論援助論Ⅱでは、地域・在宅の場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識・技術を理解する。

地域・在宅看護論

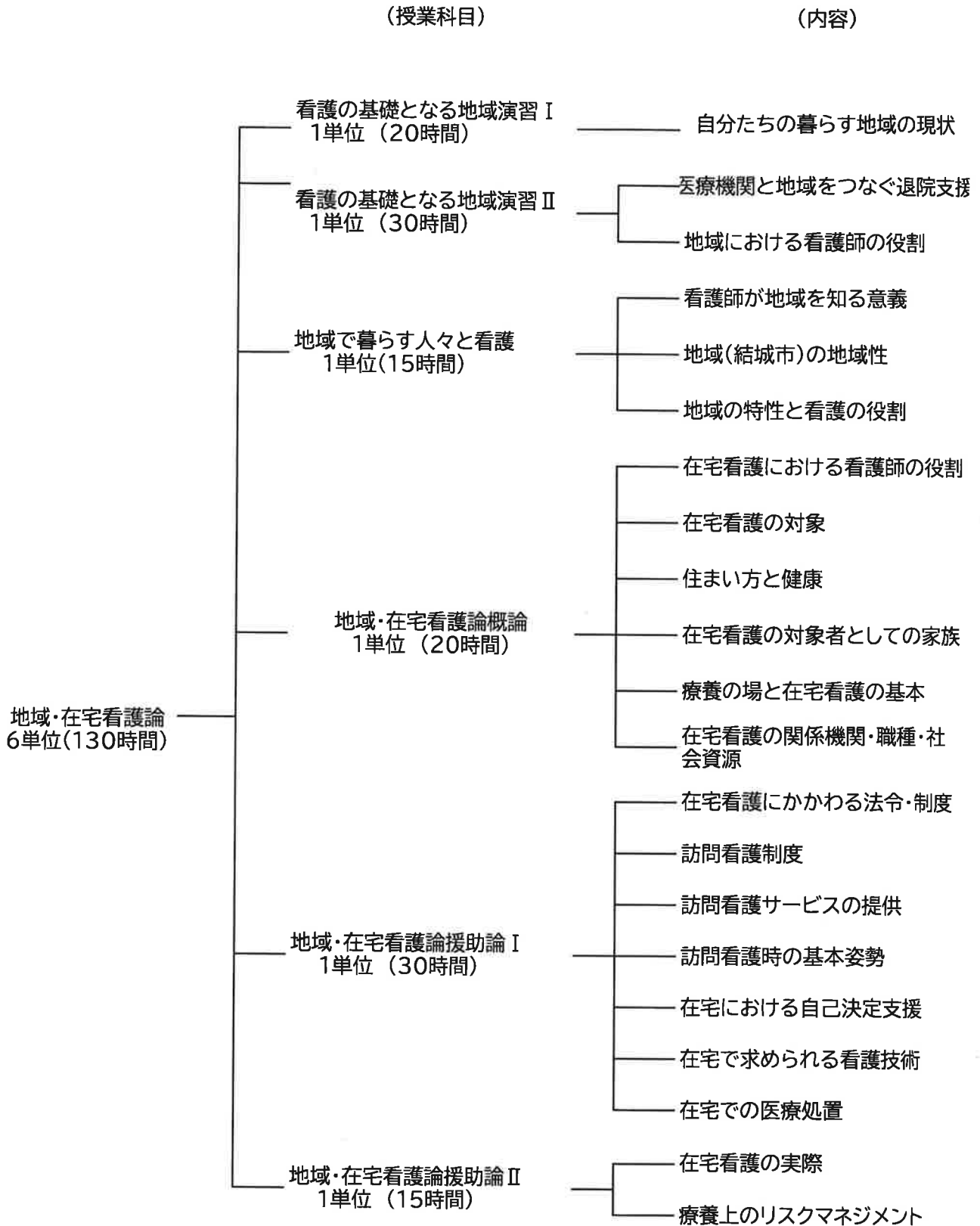
目 的

地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 地域で生活しながら療養する人々と、その家族の特徴を理解する。
- 2 対象の健康の保持増進と、在宅での療養が継続できるための看護を理解する。
- 3 地域保健医療福祉チームにおける連携のあり方と看護の役割を理解する。

地域・在宅看護論 科目構造



科目名	看護の基礎となる地域演習 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	早瀬 恵子 (実務経験のある教育者：看護師)						
ねらい	暮らしとは何かをあらためて考え、暮らしの多様性と共通性を学び、暮らしと健康の関係について考える。また、地域での暮らしを支える人たちの現状を知る。						
回数	内 容					授業形態	
1 回	1 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしの多様性と共通性					講義	
2 回	2 暮らしと健康の関係 1) 暮らしのなかで生じる健康問題とその影響 2) 家族の暮らしと健康 3) 健康の多様性 4) 健康をとらえる看護の視点					講義	
3 回	3 さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし					講義	
4 回	4 演習オリエンテーション 1) 演習の目的 ①地域での自宅以外の暮らしの場の実際を知る ②地域での暮らしを支える人たちを知る 2) 演習への心構え ①対象者の説明 ②接遇・身だしなみ ③コミュニケーションの留意点 3) 演習での学びの視点と演習方法 3) 施設別オリエンテーション					講義	
5・6 回	5 施設演習					施設見学	
7・8 回	6 まとめ (体験したことをねらいに沿っての分かりやすく他者に説明するための準備)					GW	
9・10 回	7 学びの共有・まとめ					発表	
評価方法 及び観点	GW 参加度 レポートの提出状況 レポートの内容					総合的に評価する。	
必須資料 (テキスト等)	地域・在宅看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・体験したことを説明できるよう事前学習をして臨むこと。 ・看護学生であることを自覚し、主体的な学習行動とマナーを厳守すること ・GW には積極的な参加姿勢を望む。 ・発表時は質疑応答を行ない、互いの学びを深めること。						

科目名	看護の基礎となる地域演習Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時間)	対象 年次	1年
担当者名	海老沢 佳代 (実務経験のある教育者：看護師)						
ねらい	暮らしの理解と暮らしの基盤となる地域の理解を踏まえ、その人にとっての健康を維持しながら地域で暮らすことを支える退院支援や地域包括ケアの実際を知る。また地域での暮らしを支える看護師のあり方を考察する。						
回数	内 容						授業形態
1回	1 地域包括ケアシステムと地域共生社会 2 地域包括支援センターの概要						講義
2回	3 地域での療養の場の概要と看護の継続性 1) 療養の場の移りかわり ①入院後の転棟・転院 ②退院後のさまざまな療養の場 2) 退院支援・退院調整について 3) 地域における他職種連携						講義
3・4・ 5回	4 地域での暮らしを支える支援やしゅきみ (演習事前学習) 1) 退院支援・退院調整 2) 地域包括ケアシステム 3) 地域包括支援センター 4) 地域における他職種連携						個人学習 グループ学習
6回	5 演習オリエンテーション 1) 演習の目的 ①人々の地域での暮らしを支える支援としての退院支援や、地域包括支援センターでの活動の実際を見学することで、事前に学習した内容の理解を深める ②演習を通し、地域の人々の健康と暮らしを守る支援に必要な看護師の姿勢について考察する 2) 見学の視点と演習方法 3) 施設別オリエンテーション						講義
7～10回	6 地域連携室または退院支援・調整の場面の見学						演習
11～13回	7 まとめ (演習での体験を見学の視点に沿ってまとめ、そこから「地域で暮らすこと」を支える上での看護師のあり方を考察する)						GW
14・15回	8 学びの共有・まとめ						発表
評価方法及び観点	GWの参加度や学習姿勢 レポートの内容・提出状況 筆記試験						総合的に評価する。
必須資料 (テキスト等)	地域・在宅看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・体験したことを説明できるよう事前学習をして臨むこと。 ・看護学生であることを自覚し、主体的な学習行動とマナーを厳守すること。 ・GWには積極的な参加姿勢を望む。 ・発表時は質疑応答を行ない、互いの学びを深めること。						

科目名	地域〈結城市〉で暮らす人々と看護						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	市職員 (実務経験のある教育者)						
ねらい	暮らしの基盤としての地域の特性や、そこで暮らす人々の健康と地域のつながりを理解する。						
回数	内 容						授業形態
1 回	1 暮らしと地域 1) 地域とは 2) 人々の暮らす地域の多様性						講義
2～4 回	2 学校のある地域〈結城市〉の理解 1) 自然環境 (位置・地形・気候) 2) 社会的環境 (市役所・交通の便・産業・公園・運動施設・店舗・近隣とのつながりなど) 3) 健康状態 (人口動態: 人口, 年齢 3 区分の人口の割合・死亡率・出生率・合計特殊出生率など, 平均寿命, 健康寿命, 死因順位, 受療者数, がん検診受診率など) 4) 介護事業統計 (要介護認定割合、要介護認定者の有病状況など) 5) 医療施設 (特定機能病院, 地域医療支援病院, 病院, 診療所など) 6) 保健施設 (保健所, 市町村保健センター, 母子健康包括支援センター, 精神保健福祉センター) 7) 介護施設 (地域包括支援センター, 介護老人保健施設, 介護老人福祉施設, 居宅サービス施設) 8) 福祉施設 (福祉事務所, 児童相談所, 児童福祉施設, 障害者福祉施設など) 9) 訪問看護ステーション 10) 子育て環境 (学校, 保育所, 学童保育など) 11) 文化的環境・風土等 3 地域〈結城市〉マップの作成と活用方法 4 地域の生活環境が健康に与える影響						講義 グループ学習
5・6 回	5 地域マップの作成						グループ学習
7 回	6 事例で考える「地域」でその人らしく暮らすために必要なことや活用できる地域の資源 (作成した地域マップをもとに考える)						講義 グループ学習
8 回	7 健康障害がある人もそうでない人も地域で健康的に暮らすための課題						講義 グループ学習
9・10 回	8 発表・まとめ (担当した地域の特性と事例検討結果やその地域で健康的に暮らすための課題について発表する)						発表
評価方法	GW 参加度レポートの提出状況 } 総合的に評価する。 レポートの内容 }						
必須資料	地域・在宅看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・ 授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・ 主体的に学習し, グループで協同して学習を進めること。 ・ GW には積極的な参加姿勢を望む。 ・ 発表時は質疑応答を行ない, 互いの学びを深めること。						

科目名	地域・在宅看護論概論						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (20時間)	対象 年次	1年
担当者名	菊池 朝子(実務経験のある授業科目:看護師) 飯島 明子(")						
ねらい	ライフステージや健康レベルの側面から地域・在宅看護の対象者や地域・在宅看護の機能と役割を理解する。さらに地域・在宅看護に欠かせない予防活動や家族看護の視点を養う。						
回数	内 容						授業形態
1・2回	1 在宅看護の目指すもの 1) 在宅看護が提供される場 2) 在宅看護の場の広がり 3) 在宅看護に求められていること 4) あらゆる面から QOL を考える 2 在宅看護における看護師の役割						講義
3・4回	3 在宅看護の対象者の特徴 1) 発達段階からみた対象者の特徴 2) 健康段階からみた対象者の特徴 3) 障害からみた対象者の特徴 4) 療養状態別にみた対象者の特徴 4 住まい方と健康 5 家族 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族の捉え方と看護師の関わり 3) 家族のアセスメント 4) 家族への支援 5) 地域システムの視点から家族を支える (地域のサポート ピアサポート レスパイトケア)						講義
5・6回	6 在宅看護の提供方法 1) 外来看護 2) 訪問看護 3) 施設での看護 4) 通所サービスでの看護 7 療養の場の移行 1) 患者・家族の意思決定支援・調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院時における医療機関との連携 4) 入退所時における施設との連携 8 在宅看護の基本となるもの						講義

7～10回 (45分)	9 在宅看護の関係機関・職種と社会資源 1) 在宅における社会資源とは 2) ケアマネジメントと社会資源の活用 3) 地域における多職種連携 4) ケアマネジメントと社会資源の活用 5) 地域における多職種連携 (1) 在宅における連携の特徴 (2) 医師との連携 (3) 地域の社会資源との連携 (4) ネットワークづくり	講義
	10 対象者(家族も含む)の権利保障 1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報の保護 4) 看護師の守秘義務など 5) 成年後見 6) 虐待の防止 7) サービス提供者の権利擁護 8) 法律問題の事例 11 在宅看護における看護師の倫理	講義
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基礎 (医学書院) 事例から学ぶ地域・在宅看護論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・「看護の基礎となる地域演習Ⅰ」の内容を復習して臨む。	

科目名	地域・在宅看護論論援助論 I						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	2年
担当者名	菊池 朝子 (実務経験のある授業科目：看護師) 北園 美佐子 (実務経験のある授業科目：看護師) 藤田 寮子 (実務経験のある授業科目：看護師) 中里 和美 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	地域・在宅という場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識を理解するとともに、生活の場に訪問する際の基本的マナーを理解・習得する。						
回数	内 容						授業形態
1～3回	1 在宅看護に関わる法令・制度 1) 介護保険制度 2) 医療保険制度 3) 障害者総合支援法 4) 難病法 5) 医療介護総合確保推進法 6) 医療法 7) その他の主な公費負担医療 2 介護保険制度 1) 保険者・被保険者・受給権者 2) 利用の手続き 3) 介護保険で給付対象となるサービス 4) 利用料 3 訪問看護の制度 1) 訪問看護の利用者と訪問回数 2) 訪問看護ステーションに関する規定 3) 訪問看護の利用までの手順 4) 訪問看護の費用 4 訪問看護サービスの提供 1) 訪問看護の提供とチームケア 2) 訪問看護ステーションの管理・運営 3) 訪問看護サービスの質保証 4) 訪問看護の記録						講義
4～6回	5 訪問看護時の基本姿勢 6 在宅における自己決定支援 1) 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション (1) 訪問時のマナーと態度 2) 在宅看護の展開の視点 (1) 生活動作のアセスメントと生活行為への動作 (2) 必要な介助を見極めるための動作分析 7 在宅で求められる看護技術 1) 食生活・嚥下 2) 排泄 3) 移動・移乗 4) 清潔						講義

7～15回 (45分)	1 フィジカルアセスメント 2 在宅での医療処置 1) 褥瘡(創傷も含む) 2) 尿道留置カテーテル 3) ストーマケア(人工肛門・人工膀胱) 4) 経管栄養・胃瘻・経鼻経管栄養法 5) 在宅中心静脈栄養法 6) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 7) 在宅酸素療法(HOT) 8) 在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法 9) 疼痛緩和 * 在宅酸素療法*非侵襲的換気療法*在宅人工呼吸器療法含	講義 演習
(45分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 (医学書院) よくわかる在宅看護 第2版(学研) 国民衛生の動向(厚生統計協会) 公衆衛生が見える 第3版(メディックメディア) 事例から学ぶ地域・在宅看護論(医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	在宅看護に関わる法令・制度については、関係法規Iで履修済のため、復習及び自己学習してから臨むこと。	

科目名	地域・在宅看護論援助論Ⅱ						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	3年
担当者名	飯島 明子 (実務経験のある授業科目：看護師) 北園 美佐子 (実務経験のある授業科目：看護師) 藤田 寮子 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	地域・在宅の場で展開される看護の実践に必要な基礎的知識・技術を、事例を通して理解する。						
回数	内容					授業形態	
1～6回	在宅看護の実際 1 在宅看護介入時期別の特徴 2 在宅療養者の状態別看護 1) 認知症・独居療養者 2) 難病の療養者 3) 小児の療養者 4) COPDの療養者 3 在宅におけるエンドオブライフケア 1) 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 2) エンドオブライフケアの特徴 3) 在宅終末期の特徴と療養の経過 4) 症状のコントロール (緩和ケア) 5) 自己決定への支援 6) 家族への支援 7) グリーフケア					講義 *DVD視聴 「在宅看取り」	
7回	4 療養上のリスクマネジメント 1) 在宅看護におけるリスクとは 2) 環境の整備による安全の確保 3) 身体損傷の防止 4) 薬物による事故の防止 5) 感染の防止 6) 災害に対する準備と対応					講義	
(45分)						試験	
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 事例から学ぶ地域・在宅看護論 (医学書院) よくわかる在宅看護 (学研) 国民衛生の動向 (厚生統計協会) 公衆衛生が見える (メディックメディア)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・実習に直結する内容なので、十分に理解できるよう望む。 ・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように臨むこと。 ・積極的な授業姿勢を望む。						